

御所湖随想

H22年9月 No.1 2

紅葉

「紅葉」と書くと赤い葉っぱを思いがちだが、綾錦といわれるように紅、朱、黄色などが様々に混じり合っている。真っ赤になる樹種は、意外と少ない。

紅の代表はモミジ。特に京都などで有名をはせるイロハモミジは秀逸だ。岩手ではイロハモミジは少なくヤマモミジがほとんどである。

ヤマモミジは変異が大きく、イロハモミジに似ているものがあったり、オオモミジに似ているものあり、見分けられる人は、かなりの専門家だ。モミジの葉のまわりには、鋸歯といってギザギザがある。このギザギザに特徴があり、見分けるポイントにもなっている。



黄色の代表は、イチョウだと思うが、御所湖周辺にはあまりない。しかし、左の写真のようにユリノキの黄色は目を引く。イチョウは鮮やかな黄色のまま葉を落とすが、ユリノキは葉が茶色になってしまう。このちょっとした違いが印象を変えてしまうのではないか。

この写真のユリノキは、車道沿いにあるが、カーブのため、近くに来ないとわからない。アツと思った時には、通り過ぎてしまう。きれいな黄色に見える期間もアツという間に終わってしまう。

乗り物広場にブルーベリーが植えられているが、この紅葉は見事だ。ブルーベリーはツツジの仲間だが、少し肉厚の葉が濃い紅になる。実も魅力だが、紅葉も隅には置けない。

他に、ニシキギやマユミの紅葉もきれいだ。鮮やかな紅になり、見飽きない色合いで秋の楽しみの一つでもある。

